

中医鍼灸による脳血管障害・認知症の予防と治療
—総合病院との医療連携において—

牧田総合病院関連施設
牧田中医センター 部長
植松 秀彰

三大成人病の一つである脳血管障害(中風)の予防と治療は全人類的の課題である。本病は死亡率並びに後遺症を残す確率が非常に高い疾患である。一命を取り留めたとしても本人や家族に極めて深刻な状況を作り出すことが多い事でも知られている。よって、本病の予防・治療は我々医療スタッフの大きな課題であり、人々にとっての切実な要望である。

当牧田クリニックでは25年前から前記の課題や要望に少しでも応えるため、スタッフを天津中医薬大学へ派遣し、脳血管障害の予防法・治療法である中医鍼灸の「醒脳開竅法」を履修し日本での啓蒙に努めてきた。今回は「醒脳開竅法」の概要と共に、認知症の治療の概要を紹介すると共に、鍼灸師がより医療人として認知されるために他の医療従事者と医療連携をどのように行なっているかを紹介する。

また、鍼灸師は「痛い」「痛くない」の評価を行う傾向にあり、似たような表現として「ドーズ過多」の評価があるが、医療としての評価は機能の改善・症状の改善が評価になるべきであり、ここでは脳血管障害の患者を通じて理学療法的な評価を基本として治療を進めていることを紹介する。